

下古屋 自治区だより

第88号

平成27年2月15日発行

編集：下古屋自治区

新成人を祝う会が開催されました（1月11日）



下古屋、高町との合同写真

下古屋自治区では17名の方が新成人となりました。おめでとうございます。



井郷地区全体では175名の方が新成人を迎えられ、今回の祝う会には152名の方が参加されました。

下古屋環境保全会の餅つき大会が開催されました（12月14日）



老人クラブ「松栄会」と子ども会の皆さんの協力により、環境保全会主催の餅つき大会が公民館広場で開催されました。

6月に、この活動のためにお借りした田んぼで、会員の人たちの指導で子ども達が田植えをして育てたもち米で餅つきをしたものです。子ども達は順番に餅をつき、楽しい体験となりました。

この行事は、農地や水路等の農村環境の保全活動を行っている団体が、地域住民との交流活動の一環として毎年行っているものです。



伝承行事「山の神」が行われました（12月6日）



農民の間では、春になると山の神が、山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るという信仰がある。下古屋では、毎年12月に「山の講」と称し、つとに包んだ餅を山の神に持ち寄り、焚き火で焼き、灰は農家に

配る風習があったそうである。今では、祈祷した後、持ち寄った餅を焚き火で焼き、参列者にふるまっている。



「つと」とは、卵などを持ち歩くため、わらで作ったわら細工（左の写真）



四郷八柱神社の初詣（1月1日）



今年の正月も神社ではかがり火が焚かれ、多くの住民の方々が初詣に来ていました。

神社では世話役の人たちによる甘酒や、天道の松茸会の皆さんによる餅つきの餅もふるまわれ、新しい年を祝っていました。

近くの神社の初詣もいいものですよ。

平成26年度の行事も無事終了しました。皆様のご協力ありがとうございました。
3月15日の総会、懇親会、皆様の参加をお待ちしています。